

1.認証日・登記日

石川県知事認証 令和5年3月30日

金沢地方法務局 令和5年4月12日

2.名称及活動目的

この法人は特定非営利活動法人医療を未来につなげる会(略称つなぐ医療・以下本法人)と呼称する。地域において、中小診療所(クリニック)を組織として想定し、医療サービスのDX化、ネットワーク化、効率化の促進による承継の基盤づくりを進め、Phase-Free(状態を問わない)とタスクシフト・シェア(業務共同化)の考え方を踏まえ、医師のライフスタイルと働き方の見直しを含めた支援活動を進める。それらの活動を通して医療空洞化を防ぎ、未来につながる医療サービスの仕組みを構築することを目的とする。

3.活動の種類

特定非営利活動促進法(以下「法」といいます。)は、特定非営利活動(法第2条第1項に規定する特定非営利活動をいいます。その活動の中から本法人に該当する活動は以下のものである。

- (1)保健、医療又は福祉の増進を図る活動
- (2)社会教育の推進を図る活動
- (3)まちづくりの推進を図る活動
- (4)農山漁村又は中間地域の振興を図る活動
- (5)学術、文化、芸術又はスポーツの振興を図る活動
- (6)災害救援活動
- (7)地域安全活動
- (8)科学技術の振興を図る活動
- (9)職業能力の開発又は雇用機会の拡充を支援する活動
- (10)前各号に掲げる活動を行う団体の運営又は活動に関する連絡、助言又は援助の活動

4.実際の事業活動

- (1)診療所の承継支援事業
- (2)広報、啓発及び研修活動
- (3)相談窓口事業
- (4)医師の働き方改革のための医療サービス支援事業
- (5)診療所の承継につながる研究及び出版事業
- (6)防災・防疫の医療サービス支援事業
- (7)医療サービスと健康科学との関りについての調査研究事業
- (8)その他この法人の目的を達成するために必要な事業

5. 設立主旨

●地域医療の空洞化を防ぐ支援体制づくり

地域医療に担い手となる、「診療所(いわゆるクリニック)」の従事者の医師の高齢化が進展している。地域医療の空洞化を防ぐために 承継先のない診療所のサポート体制の構築を進めていく必要がある。医師高齢化での医師不在地域、民間医業として経営が成立しない地域などにおいて医療サービスの継続を行う。そのために仕組みと、移動体(mobile)と通信(on-line)の組み合わせでの補完対応を進めて行く。

●地域医療の担い手として医師のライフスタイルと働き方の再認識

開業医及び医師の働き方改革を支援していきたい。長期休暇なしで医療に貢献し、高齢になり診療所が閉じられる、ゼロイチの働き方が続けられてきた。医師の働き方の段階を時間の短縮を行い 健康を維持しながら、段階を踏んで、継続する形を選択していく。未来計画的な「セミリタイア」の状態を作り出し、実現可能な承継と合わせたリタイア仕組みを提案したい。

●働き方改革とタスクシフト・シェアを見据えたチームでの医療サービス

一般企業では既に始まっている時間外労働の上限規制が、医師(ドクター)にも適用される。これに伴い、医師を含む医療従事者の働き方が大きく変わろうとしている。それが「タスクシフト・シェア」(業務共同化)として、医師業務の移管であり共同実施である。チームとしての医療サービスの在り方について再認識し、個別の医療機関同士の連携やチームに対応策により、地域医療を支える仕組みが構築できないかと思われる。

●医療サービスにおける DX 化推進と Phase-Free な仕組み及び健康科学への取り組み

on-line での診療と付随する on-line 投薬を核とする医療ネットワーク化、さらにはデータのクラウド化など含め、医療における DX(デジタルトランスフォーメーション)推進は次世代の医療サービスに向け変革をもたらすものであることは確かである。Phase-Free(状態を問わない)として日常、非日常を問わず、防災(非常時・災害時)での対応も兼ねる仕組みが構築される必要がある。日常生活と身体との関りを科学的に調査研究し蓄積していくことも必要であると考えている。身体にとっても重要で地域資源である「水」、そして薬草、生薬など「植物」を取り上げて健康科学的視点から取り上げていく。

6. 設立経緯

●医療承継と地域医療の確保について

医師の高齢化により医師不在による閉院によって地域医療サービスが空洞化して良いものであろうか。さらに、医療法人特有の評価される財産簿価と実態が乖離している現状がある。固定資産として計上されている医療機械や設備の投資は実際には価値ではなく、償却を待つ資産も多いのである。また、診療や検査で十分活用されず、過剰で非効率的な設備となる例も多く、結果として承継には障害となっている。このようなコスト高につながる部分を補完、支援することができれば地域医療サービスの継続につながるのではないであろうか。

●医療活動の軌跡と健康科学との関わり

当会発起人である中出忠宏が理事長、中出喜美子が副理事長を務める、医療法人社団ヤベツ会は、なかでクリニックを 2002 年(平成 14 年)5 月に白山市美川町において開業している。内科、皮膚科、泌尿器科の 3 科で地域医療に貢献してきた。関連して有限会社メディカル・エステルは 2007 年(平成 19 年)に、皮膚科との連携で肌に優しい化粧品、せっけん(石鹸)の製造販売を目指して設立され、さらに医療サービスの支援

も活動分野にも業容を拡大している。2018年(平成30年)から金澤なかでクリニックが金沢市にも開院し、内科 糖尿病内科 内分泌内科 泌尿器科 形成外科 皮膚科を開設している。新型コロナ渦の前後からの on-line 及び mobile による診療の現化を図るため診療科の設立に向け活動を始めている。さらに新型コロナ渦ではワクチン接種や PCR 検査などに積極的に取り組んできた。

医療サービスでの診療を進めるとともに、漢方処方への積極的な取り組みや生薬栽培の支援、皮膚に寄り添う化粧品、石けん事業、生活習慣病を予防する食事の在り方の実践と知見の蓄積などを進めて来た。これらは日常生活と健康維持増進を考える健康科学での取り組みの軌跡である。これまでも大学、研究機関、専門企業などと連携し進めて来たことから、これからも地域特性を踏まえた分野での挑戦も視野に入れている。このような中、医療法人社団やバツ会での医療サービスの在り方に対応が求められるとともに、地域医療の承継、継続、補完に関して事案が身近で頻発してきたこともあり、改めてNPO法人設立へ向け関係する方々に呼び掛け発起することとなった。以上を踏まえて、特定非営利法人の組織を設立し、事業活動を進め地域医療の拡充に貢献したい。

7.組織体制

理事 勝田省吾(理事長) 金沢医科大学名誉教授・金沢医科大学元学長
理事 古賀克己 株式会社アルプ会長・NPO 法人日本海国際交流センター理事長
NPO 法人日本海国際交流センター理事長
理事 谷本互(事務局) 西田幾多郎記念哲学館運営委員
監事 中出忠宏 医療法人社団やバツ会理事長
会員 10人(令和5年3月現在)

8.所在地など

〒920-8217

石川県金沢市近岡町 294 番地 7 金澤なかでクリニック内

特定非営利活動法人 医療を未来につなげる会 事務局

076-239-1010(クリニック代表) →谷本互 090-2030-3672